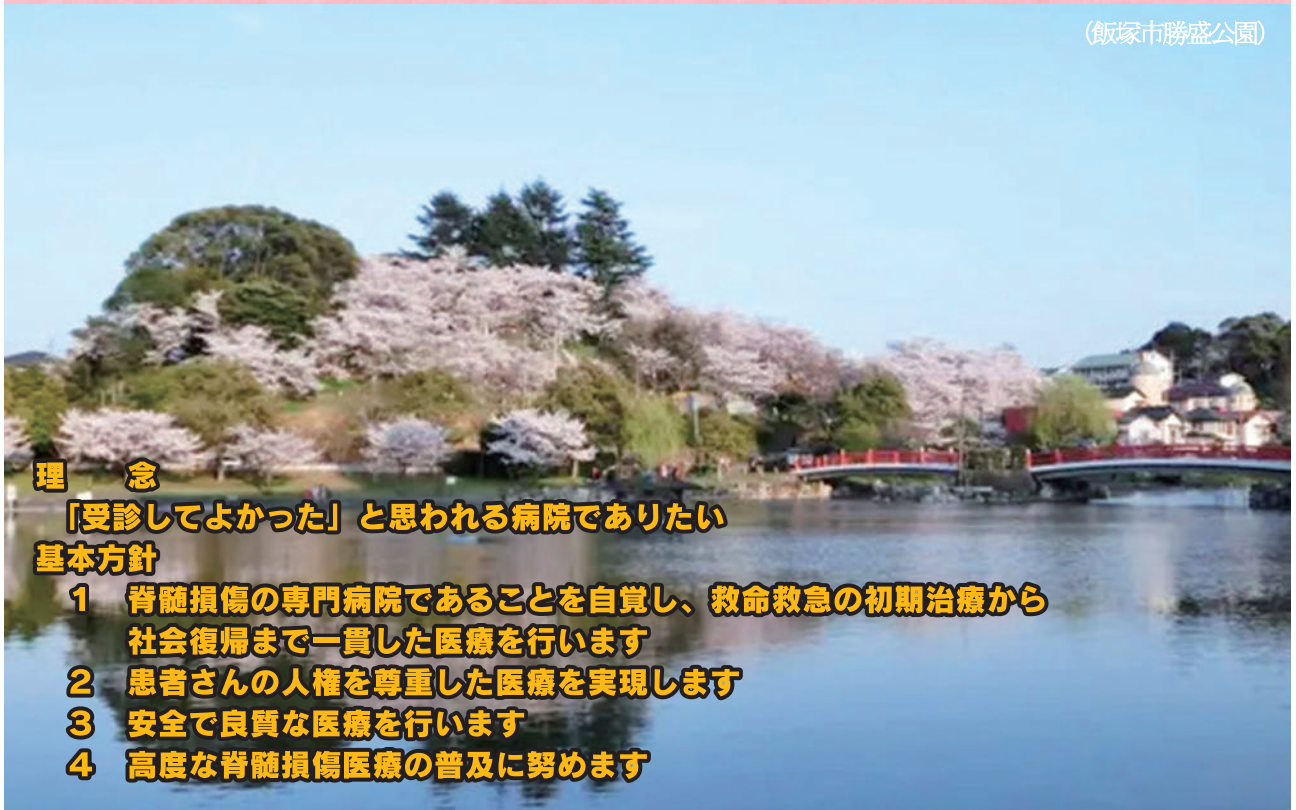


せき損センターだより No.58

(飯塚市勝盛公園)



理念

「受診してよかった」と思われる病院でありたい

基本方針

- 1 脊髄損傷の専門病院であることを自覚し、救命救急の初期治療から社会復帰まで一貫した医療を行います
- 2 患者さんの人権を尊重した医療を実現します
- 3 安全で良質な医療を行います
- 4 高度な脊髄損傷医療の普及に努めます

令和時代

院長代理 前田 健



いよいよ5月1日から令和元年となります。まだ令和という元号に慣れず、平成を懐かしく感じるのは私だけでしょうか？どっぷり昭和世代の私としては、64年続いた昭和と比べると31年で終わる平成は多少短く物足りない気も致します。しかし過去の元号を振り返ってみますと、645年の大化から令和まで248個の元号があるようで、それぞれの期間は平均すると $(2019 - 645) \div (248 - 1) = 5.56$ 年となり、かなり短いことがわかります。一人の天皇が毎年のように元号を改めた期間もあり、そうすると「ああ、とうとう元号が代わった」などと感慨にひたる間もなく、まして一般庶民は元号などというものとはほぼ無縁であったと思われます。今や改元は日本国民の一大イベントとなっており、満開の桜を眺めつつ日本人として時世の感慨に浸れること自体、十分に贅沢といえるでしょう。

一元号の期間が長くなるということは、その期間が一つの時代として受けとめられるということにもなります。総合せき損センターは昭和54年に開設され、昭和時代の黎明／発展期を経て国内外に広く知られた存在となりました。平成2年には当センターに天皇・皇后両陛下の行幸啓があり、その後の平成時代はまさに成熟期であったといえるでしょう。令和元年はちょうどせき損センターの開設40周年と重なります。令和時代のせき損センターのあるべき姿はどのようなものなのか、一人ひとりの患者さんと丁寧に向かい合いながら、職員皆で考えていきたいと思っています。

令和時代が皆さんにとってすばらしい時代となりますよう願っております。



人工呼吸器装着患者の大学入試センター試験受験を経験して



第三整形外科部長 坂井 宏旭

平成 17 年 5 月 1 日に総合せき損センターに赴任してきて、早 14 年が経ち、令和となりました。今一度、初心に帰るべく、赴任時の経験を寄稿することで、当センターの特徴を皆様にお知らせできればと思っております。赴任前まで、脊髄損傷を診る機会がほとんどなく、赴任時は病院の雰囲気圧倒されるばかりでした。そんな時に前任者からの引継ぎで、頸髄損傷により自発呼吸が失われ、人工呼吸器を装着した 19 歳男性を私が担当させていただくことになりました。

当センターはせき損患者の自宅復帰率 80%を目標に治療を行っています。そのために医師、看護師、リハビリテーションスタッフ、ソーシャルワーカー等を交えたスタッフミーティングを定期的で開催しています。そのなかで、患者が大学入試を希望していることが話題とあがりました(10/3)。しかし、センター試験は願書の受付期間が 2 週間(10/3~10/17)しかないため、どうやって出願したらよいのか、実際に受験できるのかといったことさえ分からない状況でした。そんな状況下で、病院としてできる限りバックアップして、言うなれば、だめもとでやるしかないでしょといった挑戦を行いました。

受験後、大学入試センターに問い合わせた所、受験者数 50 万人中、肢体不自由による代筆受験は全国で 36 名、実際に人工呼吸器を装着した状態での受験はこの方一人だけとのことでした。今、振り返ってみると、大変なことを成し遂げたなーというのが実感です。まずは、本人の情熱、家族の愛情がなければ到底受験できません。(当日の本人の気迫は鬼気迫るものがありました。) また、大学入試センターの障害者に対する受け入れの良さは、私自身としては意外に感じました。(もっとお役所的対応をするかと思いました。)





この受験を通して、医療チームの対応として、どこまでバックアップすべきかといったことに常にミーティングで議論しながら行ってきました。今後、同様の患者に対する対応の為にもこの受験について再度検証し、情報を発信していかないと感じています。

このように短期間で受験できるようにもっていったのは、病院内での風通しの良さ、特に芝前院長をトップとして、院内の方向性を一つにできたことが大きな要因だと感じています。現在、前田院長代理を筆頭にこのような病院の特徴を活かし、地域に根ざしたより良い病院を目指し、一丸となって頑張っております。今後ともよろしくお願ひ申し上げます。



合格おめでとう！



退院直後 関西労災病院

2年前幕張メッセ



中央リハビリテーション部の紹介

中央リハビリテーション部
理学療法士 荻原 真帆



総合せき損センターの中央リハビリテーション部は、理学療法士 14 名、作業療法士 11 名、リハビリ助手 2 名の計 27 名体制で、脊髄損傷患者および脊髄脊椎疾患患者を対象としたリハビリテーションを行っています。

リハビリテーションの介入は、急性期外傷脊髄損傷患者が搬送された直後に、医師や看護師と協力し全身状態の検査から始まります。そして、術後(もしくは受傷直後)の病室での訓練を経て、早期から車いすの移乗練習、食事や更衣、トイレ動作や入浴などの日常生活動作に加え、車への移乗などの動作の練習も行います。さらに医用工学研究部と連携し、住宅改修相談や日常生活支援機器の導入にも積極的にアプローチしています。

作業療法部門では昨年からは病棟での日常生活動作練習の介入を始め、早期に患者様が動作を獲得できるように取り組んでいます。また、屋外環境に適応できるよう、バスの乗車や買い物などの外出リハビリテーション訓練も開始しています。理学療法部門では障がい者スポーツの普及や周知を目的に、ホスピタルプラザと呼ばれる体育館で、車いすバスケやテニス、卓球などのスポーツを週に 1 回実施しています。

現在部内では、脊髄損傷のデータベースをはじめ、WPAL(歩行ロボット)での歩行など、多くの研究が行われており、学会等での報告も積極的に行っています。今後も治療面だけではなく、様々な分野から脊髄損傷医療の発展に貢献できるよう、邁進していききたいと思います。

〈前年度学会報告〉

脊髄損傷者の安静時代謝	第 66 回日本職業・災害医学会学術集会
脊髄損傷者の安静時酸素摂取量と身体特性	第 66 回日本職業・災害医学会学術集会
糖尿病が及ぼす外傷性頸髄損傷者の運動機能について	九州理学療法士・作業療法士合同学会 2018
外傷性頸髄損傷者の復学に向けての支援と取り組み	九州理学療法士・作業療法士合同学会 2018
頸髄損傷者における受傷から 1 年間の肺活量推移	第 28 回日本呼吸ケア・リハビリテーション学会
受傷時年齢が不全頸髄損傷者の歩行能力に及ぼす影響	第 53 回日本脊髄障害医学会
外傷性脊髄損傷者の長期的予後について	第 53 回日本脊髄障害医学会
脊髄損傷者に対する歩行補助ロボット WPAL の使用効果について	第 2 回日本リハビリテーション医学会秋季大会
脊髄損傷者における歩行能力と健康関連 QOL との関連	第 55 回日本リハビリテーション医学会
歩行アシストスーツによる頸髄損傷不全麻痺者の歩行機能変化の検討	第 55 回日本リハビリテーション医学会

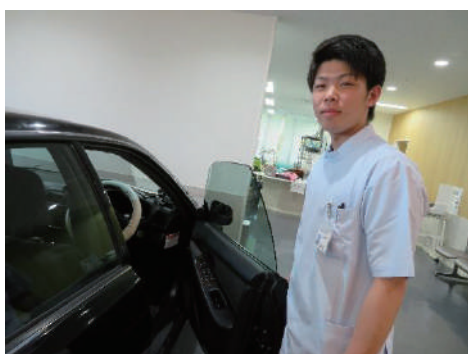
〈資格〉 3 学会合同呼吸療法士 6 名、専門理学療法士(神経)1 名、認定理学療法士(脊髄障害)3 名
日本糖尿病療養指導士 1 名

〈所属学会〉 脊髄障害医学会 12 名、ASIA4 名、日本職業・災害医学会 2 名、日本医療情報学会 1 名
日本呼吸ケア・リハビリテーション学会 1 名、QOL-PRO 学会 1 名



当センターから 2007 年に北海道中央労災病院せき損センター（現 北海道せき損センター）に転勤となったのち 11 年ぶりに戻って来た理学療法士の戸渡と申します。途中 2 年間だけ急性期病院である千葉労災病院に赴任していましたが、就職以来ほぼずっと脊損医療に携わって来ました。転勤したことで専門病院の良さ、一般病院で脊損医療を普通に進める難しさが身に沁みて分かったつもりです。これらの経験を活かし脊損医療の更なる向上と普及に尽力していきたいと思っています。

今年度より総合せき損センターに入職いたしました、理学療法士の松下航大と申します。音楽で身を立てることに挫折してからというもの、回り道の多い人生だった気もいたします。しかしながら、平成から令和への改元、再生医療の治験のスタートなど、新しい時代の幕開けと共に脊損センターの一員として迎えていただけるこのご縁に深く感謝しております。この初心を忘れず、目の前の患者様に最高の理学療法を提供すべく精進してまいります。今後ともよろしくお願い致します。



今年から総合せき損センターに入職しました、高波亮太と申します。総合せき損センターに入職した動機は、全国でも数少ない、急性期から社会復帰まで一貫したリハビリテーションを行っていることに魅力を感じたからです。患者さんに寄り添い、多くの選択肢を提供できるように日々、自己研鑽をおこたらず専門職としての自覚を持って頑張りたいと思います。



スイッチを押す支援機器について



医用工学研究室

主席研究員 寺師 良輝

スイッチ押し補助が必要な場面

障害のある方への支援で、しばしばスイッチを押すことが対象になることがあります。30年ほど前からあるのがパソコンの電源ボタンです。パソコンの電源投入後は、さまざまな入力補助機能を利用することで操作できるのですが、電源ボタンだけは物理的に押す操作が必要で苦労してきました。それから壁に設置されたドアホン、電気錠のボタンです。賃貸マンションでは改造するわけにもいきません。一方で、自分で開錠できるとヘルパーを入室させることができるので、一人暮らしが可能となるキーデバイスであったりします。

スイッチを押すロボット

2年ほど前から、スマートフォンやスマートスピーカーで遠隔操作するスイッチを押すロボット、スイッチボット(4,500円くらい)、マイクロボットブッシュ(6,000円くらい)といった製品が販売されるようになりました(図1,2)。広告や設置例によると、照明の壁スイッチ、給湯機のお湯はりボタン、

コーヒーマーカー、パソコンの電源ボタン、古いラジカセなどが操作対象と紹介されています(図3)。小型、無線式、電池・バッテリー式の優れた点があります。

スイッチを押す支援機器

福祉用具として販売されているスイッチを押す支援機器に、オスイッチ WL(25,920円)があります(図4)。ACアダプタを必要としますが、押す力が強い優れた点があります。医用工学研究室では、一般製品である「スイッチを押すロボット」の利点を活かしつつ、スマートフォンやスマートスピーカーを使用しない方、使用に支障のある方を対象とした支援機器を開発しました(図5~8)。スイッチボットを外部スイッチで操作できる中継装置(入力インターフェース)で、通信費不要のBluetooth LEという近距離通信のみ使用し、通信回線もWi-Fiも不要です。対象機器1台用とドアホン・電気錠用があります。ドアホン・電気錠用は、スイッチひと押しで『応答』『開錠』『終了』の操作が完了します。



図1 スwitchを押すロボット・スイッチボット



図2 スwitchボットのスマートスピーカー対応



図3 スイッチボットの設置例



図4 オスイッチWLの設置例

独立行政法人労働者健康安全機構 総合せき損センター

スイッチ操作補助具 未定

——— 離れたスイッチを近くのスイッチで ———

リモコン非対応のドアホン、PC電源、電動ベッドなどのスイッチ操作が遠隔でできるようになります。この製品は、スイッチ押しロボットSwitchBotをスマートフォン、通信回線がなくても近くのスイッチで操作できるようにするための入力インターフェイスです。

【共同開発】(株)E&I

【スイッチコネクタ】3.5mmミニジャック
 【電源】単4乾電池4本
 【本体サイズ】縦135×横75×奥25 (mm)
 【対応製品】SwitchBot

図5 スイッチボットを外部スイッチで操作できる中継装置（開発品）



図6 対象機器 1台仕様品



図7 ドアホン・電気錠対応品



図8 障害のある方のスイッチボット対象機器例

外来担当表

平成31年4月1日～

診療科	曜日	月	火	水	木	金	
整形外科 (再診のみ予約制) リハ科	交代制	林	森	林	森		○診療科 整形外科 泌尿器科 リハビリテーション科
	森下	森下	交代制	小早川	小早川		
	高尾	交代制	久保田	高尾	久保田		診療受付時間 (月曜日から金曜日) 新患 8:30~10:30 再来 8:30~11:30
	坂井	河野	金山	坂井	河野		休診日 土・日曜日及び祝日 年末年始(12月29日~1月3日)
泌尿器科 (再診のみ予約制)	高橋	牧	高橋	牧	高橋		宿泊施設 遠方からの受診者宿泊施設として厚生棟 (はなみずき)をご用意しております。ご利用の方は総務課までお申し出ください。 (申込受付時間:平日8:30~17:00)
		高橋	牧	高橋			

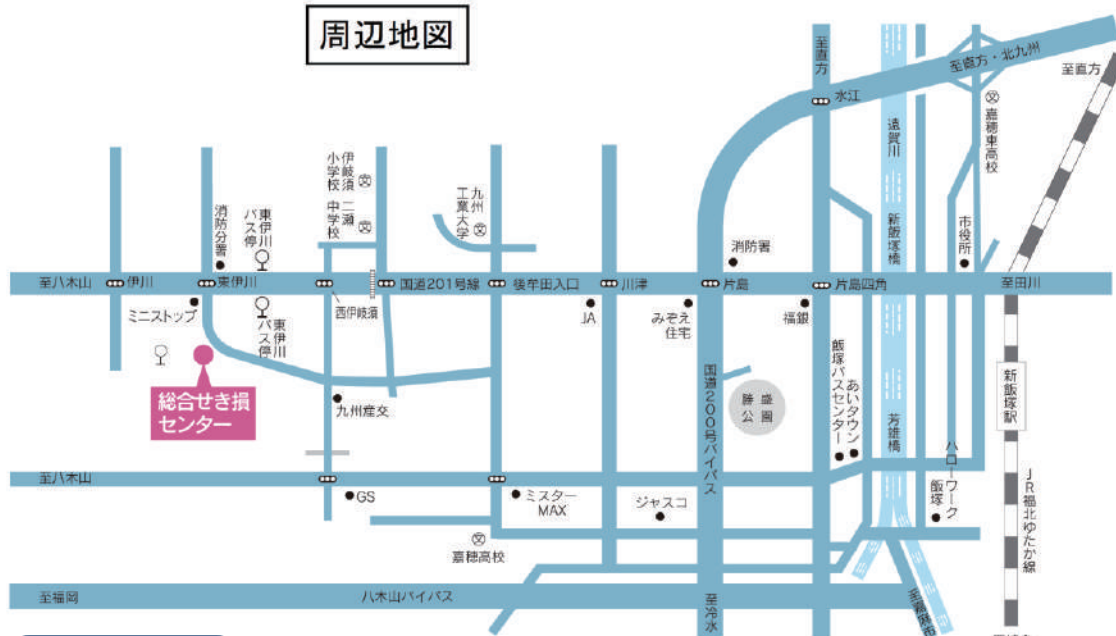
◎泌尿器科は再来のみ時間帯予約制です。

TEL0948-24-7500(14時~16時予約・変更受付)

◎整形外科は再来のみ時間帯予約制です。

TEL0948-24-7500(14時~16時予約・変更受付)

周辺地図



福岡方面

からお越しの方

JR+西鉄バスの場合

- JR「博多駅」→福北ゆたか線/快速40分→「新飯塚駅」下車
- 西鉄バス「新飯塚駅」→(飯塚行き等/10分)→「飯塚バスセンター」にて乗換
「飯塚バスセンター」→(福祉センター行き/20分)→「総合せき損センター」下車

北九州方面

からお越しの方

JR+西鉄バスの場合

- JR「小倉駅」→鹿児島本線/20分→「折尾駅」にて乗換(新飯塚駅直通も有)
「折尾駅」→(福北ゆたか線/40分)→「新飯塚駅」にて下車
- 西鉄バス「新飯塚駅」→(飯塚行き等/10分)→「飯塚バスセンター」にて乗換
「飯塚バスセンター」→(福祉センター行き/20分)→「せき損センター」下車



SPINAL INJURIES CENTER
独立行政法人労働者健康安全機構
総合せき損センター

〒820-8508 福岡県飯塚市伊岐須550-4
TEL0948-24-7500 FAX0948-29-1065
ホームページアドレス <http://www.sekisonh.johas.go.jp/>
発行責任者: 院長代理 前田 健